

## 平成28年度宮崎医療福祉専門学校入学試験（国語）

## 【1】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

西洋人と日本人の自我構造の相違は、対人関係のあり方に①如実に反映される。

日本人の場合は、人間関係の基本構造として、無意識内の自己を共有しあうものの関係として、②無意識的な一体感を土台としている。これは、西洋人の場合のひとりの「個人」と他の「個人」が関係をもつという形態とは著しく異なるものである。

イザヤ・ベンダサンは日本人にとって契約の③ガイネンがいかに理解しがたいものであるかを明らかにしたが、契約こそは個人と個人が関係を成立せしめるために必要なものであり、それが可能なかぎり言語化されていることに特徴をもっている。日本人にとって、好ましい関係は、契約による関係ではなく、「察しのよい」関係である。察するとは、言語表現以前に相手の考えや感情を読みとることであり、それは、無意識的な一体性を前提としている。

筆者はこのような考え方の相違を、④日本における「場」の倫理と、西洋における「個」の倫理の対立として論じてきた。「場」の倫理に従えば、個人を際立たせることはきわめて危険であり、いかに能力があっても、うっかり行動すると場の外に出されてしまう。日本では「場」の外に出ることは死を意味するので、これは大変なことである。

個人がその能力を⑤ハッキするときも、「……のために」とか、「皆さんの⑥ヨウセイにこたえて」などという、背後に場の力学を背負った生き方をしなければならない。( A )、一度場の中にはいつてしまうと、よほどのことがないかぎり、その場の中で救われるという利点ももっている。大学に入学すると、よほどの成績でないかぎり、卒業できるし、その場の長となったものは場の成員の「面倒を見る」ことが暗黙のうちに義務づけられるのである。

外国の場合、能力のないものは場による救いがないだけに、厳しい現実と直面しなければならない。会社に就職しても⑦I通りの働きがないときは、⑧Iが解除されることになる。このような個人に対する責任の厳しさは幼児のときから訓練されており、筆者は、スイス留学中に、小学一年生が成績次第によって幼稚園に落第するのを知り、驚いたことがある。能力に応じて勉強するといえば当然のことであるが、それがそのまま当然のこととして行われる点に、ヨーロッパ人の厳しさを感じたのである。

西洋人の自我確立において、家庭が果たす役割の重要性を忘れてはならない。この点は、作田啓一が明確に指摘を行っている。このことは筆者も欧米留学中にしばしば実感したことであったが、欧米の家庭は、外の社会に対して強い壁をもうけ、その中で子どもは両親、特に父親から責任ある主体として成長してゆくための厳しいしつけを受ける。

これに対して、日本の家庭は、作田が指摘するように、外に対して開かれている。( B )、父母は「世間さま」の⑨キハンに合うように、というよりは、いかに場の平衡状態を維持するかという点のしつけを与えるのである。他人に笑われないようにということが非常に大切な指標となる。

考えてみると、⑩日本の「ふすま」による家屋構造は、日本人の自我構造をよく反映している。それは密室であって密室ではない。日本の家屋にあっては、たとえ密室にいたとしても、ふすまを通じて感じとられる家全体の平衡状態を破らぬように行動することが可能であり、また、そうすべきなのである。

ところで、西洋の近代的自我の確立に目覚めかけた日本人が、この「家」の構造を重圧と感じたのは、無理からぬことである。この点についての作田啓一の分析は見事である。

「近代的自我の成長はつねに《家》にたいする抵抗の過程において行なわれてきた、ということになっている。実際の家出人、あるいは家出を念じた人によって日本の近代文学が成立した。まさにそのとおりなのだろうが、近代化を西欧化と考える常識の立場からすると、これはじつに奇妙な命題である。西欧の近代資本主義社会形成のにな手となったブルジョワの家族は近代的自我のポジティブな養成機関であったからだ。」

このような観点からすれば、⑪日本の「家出人」たちがいかに自我確立の文学をうたいあげても、それは西洋人のそれとは異なるものとならざるを得なかったことが了解される。明治・大正にかけて西欧的な自我の確立を成し遂げたような錯覚をもった日本人は、第二次世界大戦という痛撃によって、その自我のにせもの性をはっきりと体験させられたのである。

このような家族のあり方の相違と、それに加えて、第二次世界大戦における倫理観の混乱のため、日本人の自我は、今大きい⑫岐路に立たされていると考えられる。この点について、最後に考察してみたい。

日本人の中でも、西洋流の自我の確立を望む人は、「家出人」となることを指摘した。ところが、実際、われわれの自我確立をはばむものは「家」などではなく、もっと広い「場」なのである。その

㉔ショウウコに、家出をした文学者たちは自我確立の小説を書きつつ、一方では「文壇」という日本の場をつくり、その生き方は相変わらずの日本式を守っているのである。

これはなにも文学者のみのことではない。学者であれ、政治家であれ、その専門としたり主張したりするところは、近代的であり革新的であるのだが、その属する集団構造は、あくまで日本的「場」であることが多いのである。

このような問題をますます複雑にするのは、戦後になって倫理観が混乱し、親たちがどのように子どもをしつけてよいかわからなくなったことである。戦後の親は一応アメリカの真似をして子どもを「自由に」育てようとしたが、今まで述べてきた点からも明らかなように、それは西洋流の自我を育てるしつけの厳しさをまったく欠いたものであった。しかも、一方では日本的な「察する」ことに価値を置く倫理観に基づいて、子どもたちを教育したわけでもなかった。

(河合隼雄「母性社会日本の病理」より)

問 1 傍線部㉑～㉔の片仮名は漢字に改め、漢字には読み仮名をつけなさい。

問 2 ( ) A、Bに適する語をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア つまり      イ だから      ウ しかし      エ むしろ      オ しかも

問 3 傍線部㉑「無意識的な一体感」とはどうすることによって得られるのか、文中から二十二字で抜き出して答えなさい。

問 4 傍線部㉒「日本における『場』の倫理と、西洋における『個』の倫理の対立」とあるが、筆者は「場」についてどのようなものと述べているか、筆者の定義に合致するものに○、合致しないものに×をつけなさい。

- ア 可能なかぎり言語化された結びつきを持つ集団である。
- イ 人間にとって、孤立を防ぐためになくてはならないものである。
- ウ 何らかの理由で結びついた集団であり、一時的な関係のこともある。
- エ 個人の責任を追及しないが、個人が突出して活躍することを認めない。

問 5 Iにあてはまる語をこれより前から抜き出して答えなさい。

問 6 傍線部㉓「日本の『ふすま』による家屋構造は、日本人の自我構造をよく反映している」とあるが、ここでいう「日本人の自我構造」の特徴ともいえる態度を、文中から十一字で抜き出しなさい。

問 7 傍線部㉔「日本の『家出人』たちがいかに自我確立の文学をうたいあげても、それは西洋人のそれとは異なるものとならざるを得なかった」とあるが、「家出人」が西洋のような自我確立ができなかったのはなぜか。四十字以内で説明しなさい。

問 8 本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人は、無意識に一体感を感じる人とそうでない人を見分けようとする習慣があり、他と契約を結ぶことが苦手である。
- イ 西洋の家庭においては、外の社会に対しても家族に対しても強い心の壁を作るように厳しくしつけられ、強力な近代的自我を確立させる。
- ウ 日本では、家庭内の教育で子ども達に近代的自我を形成することはできなかった。それは西洋人と日本人では自我構造が異なるからである。
- エ 日本人は近代的自我の形成で西欧に遅れをとっているように見えるが、実は日本の方が外に開かれた、西欧より発展した自我形成を成しえている。

## 【2】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

貧しい漁村に暮らす伊作は、九歳にして、生活のために年季奉公に出た父に代わって一家の暮らしを支えなければならない。伊作は村人の行事をとり行う男たちに加えられた時、満ち足りたものを感じる。村の中で大人として認めてもらうことは大きな喜びだった。しかし、それは同時に、沖をゆく船を破船させて積み荷を奪うより他に生きるすべがないこの村の悲劇的な現実を知るということでもあった。

## ① 「山が赤くなってきた」

傍らに立つ女が、つぶやくように低い声で言った。

峯々は、西日を受けて輝いているが、ひととき高く屹立した峯の頂き附近に、染料をしたたり落した様な淡い朱の色がみえる。二日つづきの雨で霧が立ちこめ、峯を望むことはできなかったが、その間に峯の樹葉は色づきはじめていたのだろう。

伊作は、峯を見つめた。

紅葉は、例年、その峯の頂きからはじまり、徐々に他の峯々の稜線に移り、やがて①雪崩のように速度を早めて山肌を朱の色に染めながら下方へひろがってゆく。それは、深く刻まれた谷々を越え、低い山をおおい、やがて村の背後の山を染める。その頃には、すでに遠い峯々に枯葉の色がひろがっているのが常であった。

村に、秋の気配は濃い。茅の尾花が穂をのぼし、その頃、磯に寄ってくる小さい尾花蛸もとれはじめている。それはきわめて美味で、生で口に入れたり茹でて食べたりする。家々では、子供たちが干物にするため開いて、竿から竿に張った縄につるしていた。

尾花蛸の漁獲について紅葉の訪れがあるが、村の者たちは山が赤く染まるのを眼にして大きな期待をいだく。

紅葉の色が褪せ、葉が落ちはじめる頃から海は②荒れがちになる。二日ほど風の日があると、その後の数日間は激浪が押し寄せ、波しぶきが家々にも降りかかってくる。③荒れた海は、時として村に思わぬ恵みをあたえてくれる。それは乏しい耕地や磯で得られるものなどとは比較にならぬ豊かなもので、数年は村で年季奉公に身を売る者も④カイクムになる。恵みは稀にしか村にあたえられぬが、人々はその訪れを願って生きている。紅葉は、恵みの訪れる可能性のある時期が近づいてきていることをしめしていた。

村人が歩き出し、列が動きはじめた。かれらは、峯の頂きに眼を向けている。

伊作は、山路を下りながら海をながめた。干潮時で、鋭く突き出た岬の根に岩が露出し、わずかにくぼんだ村の前面の海にも、かすかに水面から頭部をのぞかせた岩がみえ、その附近が泡立っている。

岸に近い海には複雑に入り組んだ岩礁がつらなり、蛸、貝類を棲みつかせ、魚類を憩わせている。藻がゆらぎ、海苔は岩肌に分厚く貼りついている。男たちは小舟を出して魚類をあさり、女や子供たちは岩の間をさぐって海藻を採り、貝類を拾う。村にとって、岩礁のひろがる海は生命を維持させてくれる貴重な漁場だが、豊かな食物、金銭、衣類、嗜好品、什器などをあたえてくれる場所でもあった。

恵みの訪れはむろん不規則で、二、三年つづいたこともあれば、十年以上も絶えたままであったこともあるという。最近の訪れは六年前で、かれが三歳の初冬であった。

幼児の頃の記憶は漠としているが、その折の思い出は鮮烈なものとして胸に残っている。家の中が妙に明るく、両親をはじめ村人たちが頬を紅潮させ、歯列をむき出して笑っていた。その④異様な空気に、かれはおびえて泣きつづけたことをおぼえている。

村の沸き立つようなぎわいが、どのような原因でおこったかを知ったのは二年前であった。

その年も紅葉が村を染めた頃、村人総出の行事がおこなわれたが、それが何を祈願するものであるかを知らぬ伊作は、同年齢の佐平という少年にたずねた。

「お前、知らねえのか」

佐平は⑤蔑みに満ちた眼を向けてきた。

伊作は、佐平に羞恥を感じ、家にもどると母にたずねた。

「お船様だよ」

母は、答えた。

伊作は、頭をかしげた。

「ほれ、あそこにあるお椀もお船様が恵んでくれたのだ」

母は⑥煩わしそうに言うと、棚の上に視線を向けた。

かれは、椀をあらためて見つめた。木をくりぬいた荒けずりの椀とちがって、木地がひどく薄く、しかも厚さが平均している。なにかが塗られているらしく、赤地の木肌は艶やかな光沢をおび、二筋の金色の細い線が縁に沿ってえがかれている。それは、使われることなく棚の上に置かれたままになっていて、正月と盆に食物が盛られ先祖の位牌に供えられるだけであった。

母はそれきり口をつぐんだ。

かれには、その木椀が村の行事とどのようなつながりがあるのか見当もつかなかったが、かれの無知を嘲笑した佐平からお船様についてきかされ、木椀がどのような意味をもつものかも知るようになった。

お船様とは、村の前面にひろがる岩礁の多い海で破船する船のことだ、と佐平は言った。お船様には、食物、什器、嗜好品、繊維類などが積まれているのが常で、それらは村人の生活を十分にうるおす。また、岩や波浪に破壊され磯にうちよせられた船材は、家の◎ホシュウにあてられたり家具作りにも利用されたりする。冬をひかえてもよおされる村の行事は、航行する船が岩礁でくだかれることを祈願するものだという。

(吉村昭「破船」より)

問1 傍線部①～④の片仮名は漢字に改め、漢字には読み仮名をつけなさい。

問2 ①「山が赤くなってきた」とあるが、伊作や村人にとって山はどのような存在なのか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 村人の生活は自然の恵みだけを頼りにしており、山は常に人間に寄り添う親のような存在。
- イ 自然の恵みに逆らって生きることを選んだ村人に、人智の及ばない脅威を見せつける存在。
- ウ 過酷な自然環境を村人に突きつけてくるため、常に油断せず向き合い続けるしかない存在。
- エ 村人の生活は自然に従って営まれており、山はその自然を代表する圧倒的に偉大な存在。

問3 傍線部②「荒れがち」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 荒れることが多い
- イ どちらかというと荒れている
- ウ 間違いなく荒れる
- エ 荒れたように見える

問4 傍線部③「荒れた海は、時として村に思わぬ恵みをあたえてくれる。」とあるが、ここでの「恵み」とはどのようなものか、二十字以内で説明しなさい。

問5 傍線部④「異様な空気」あるが、この空気についての説明として最も適当なものを次から一つ選び、符号で答えなさい。

- ア 村人は、人道的に許されないことを行って生をつなぐ後ろめたさを感じながら、村の習慣を受け入れている。罪の意識の共有が共同体の結束を強め、異常な興奮状態になっている。
- イ 村人は、ことの善悪を考えないようにするという共通認識があり、義務的に興奮状態を作り上げている。村人が我に返ることがないように続けられる盛り上がりは熱気を帯びるのである。
- ウ 村の存続をかけた行事にしまわって、村全体の責任ということにしているので、村人個人はすっかり割り切って迷いもない。村人一同が真の歓喜の渦の中にあり、興奮している。
- エ 人道的に許されないことを続けてきた村人の心は深く傷つき、みじめさと悲しみしかない。喜んだふりをして騒いでいる。絶望した心が寄り添い合って興奮は異常に高まるのである。

【3】 次の語の意味を後から選んで記号で答えなさい。

- |           |             |                 |              |           |                   |
|-----------|-------------|-----------------|--------------|-----------|-------------------|
| ①傲慢       | ②腐心         | ③執拗             | ④陳腐          | ⑤辟易       | ⑥杜撰               |
| ア しつこいこと。 | イ うんざりすること。 | ウ ありふれてつまらないこと。 | エ 見下していばること。 | オ 苦心すること。 | カ いいかげんで手落ちが多いこと。 |

【4】 □□に漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

- ①□□末節      ②支離□□      ③□□知新      ④因果□□

## 解答

### 【1】

- 問1 ㉠によじつ ㉡概念 ㉢発揮 ㉣要請 ㉤規範 ㉦きる ㉧証拠 (②×7=14)  
問2 A ウ Bア (②×2=4)  
問3 言語表現以前に相手の考えや感情を読み取ること (④)  
問4 ア× イ× ウ○ エ○ (④×4=16)  
問5 契約 (④)  
問6 場の平衡状態を維持する (④)  
問7 自我確立のためには、「家」ではなく「場」に抵抗することが必要だったから。(④)  
(自我確立をはばんでいたものは「家」ではなくて「場」なので、家出をしても自我確立はできないという内容であること。)
- 問8 ウ (④)

計54点

### 【2】

- 問1 ㉠なだれ ㉡皆無 ㉢さげす ㉣わずら ㉤補修 (②×5=10)  
問2 エ (④)  
問3 ア (④)  
問4 船が破船したことによって得られる積み荷 (④)  
問5 ア (④)

計26点

- 【3】 ①エ ②オ ③ア ④ウ ⑤イ ⑥カ

②×6=計12点

- 【4】 ①枝葉 ②滅裂 ③温故 ④応報

②×4=計8点